

静浜基地で中学生に自衛隊の仕事を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月16日（金）、掛川市立栄川中学校2年生29人と教諭3人の航空自衛隊静浜基地（焼津市）見学を支援した。

これは、日頃見ることでできない自衛隊の施設や装備品等を見学し、災害派遣などで活躍する自衛官が普段どのような仕事をしているのかを知る機会として実施された。

昼頃に基地に到着した生徒たちは最初に、昼食として自衛官が災害派遣などの時に食べる携行食を喫食した。この日のメニューはハンバーグで、生徒たちからは「思ったよりも美味しくてビックリした」「見た目よりお腹がいっぱいになる」などの感想が聞かれ、満足そうな様子だった。

当日は天候に恵まれ、基地の概要や自衛官の給与、福利厚生、営内の生活などについて説明を聞いた後、消防小隊での消防体験、T-7初等練習機の離発着訓練や格納庫に駐機している航空機を見学した。

生徒たちからは「実際に航空機を見学し、整備員の話聞いて、飛行機の仕事にも興味がわきました」「自衛官が基地の中でいろいろな仕事をしていて、自衛隊のイメージが変わりました」などの感想が聞かれた。

静岡地本は、今後も部隊と連携し、基地見学等あらゆる機会を活用した積極的な広報に努めていく。

富士山こどもの国「働く車大集合」に自衛隊車両と南極の氷を特別展示



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は10月18日（日）、富士山こどもの国（富士市）で行われたイベント「働く車大集合」に陸上自衛隊第34普通科連隊（板妻駐屯地）とともに参加し、自衛隊車両と南極の氷を特別展示した。

このイベントは、働く車の大切さを子供たちに学んでもらう目的で行われ、自衛隊の車両のほか、消防車やパトカー、ショベルカー、ごみ収集車など、地域で働く車が大集合した。

自衛隊は、同連隊の高機動車、軽装甲機動車、偵察用オートバイを展示。来場者は、普段は近くで見ることのない自衛隊車両をバックに親子で写真を撮ったり、隊員に「いつもどんな訓練をしているんですか」「この車は走るとすごく揺れるんですか」などと質問し、自衛隊とのふれあいを楽しんでいた。

また、会場では海上自衛隊の砕氷艦「しらせ」が持ち帰った南極の氷を特別展示。親子が氷に耳を近づけ、数万年前の大气が現代に放出されるパチパチという音に聴き入っていた。氷の音を聞いた子供の「なんでパチパチ言うの」という質問に、隊員が「降った雪が積り固まっているから、空気が入っているんだよ」と説明すると、納得した様子で氷を見つめていた。

静岡地本は、今後も自衛隊の魅力を発信するとともに、地域の多くの方に自衛隊の活動への理解促進を図れるよう、広報活動に邁進する。